

「美園スタジアムタウンビジョン2050(素案)」に対する意見募集結果

2021年4月17日

※修正等有り→「○」 修正等無し(素案のまま)→「—」

| No | 該当箇所 | 意見内容 | 理由等 | 考え方・対応(案) | 修正有無 |
|----|-------------------------------|--|--|--|------|
| 1 | 意見募集方法 | 意見募集する時の素案PDFについて、PDFへの注釈機能利用は許可して欲しい。 | 読みながら注釈コメントを付記できないのでチェックしづらい。 | ご指摘を踏まえ、今後、各種意見募集資料を作成・公表する際の留意事項として対応いたします。 | — |
| 2 | 全体 | 計画年次の2050年の制約条件(人口フレーム、気候変動の影響、自然災害リスク、周辺地区の開発動向等)を示したうえでビジョンを検討すべき。 なお、この点は今回のビジョンの修正で対応することは難しいだろうが、今後の見直し、UDCMiの活動等で対応が望まれる。 | 本来、長期ビジョンの検討は、計画年次の制約条件の下で持続可能な形で生存・発展・成長できる姿を描く必要がある。 現在の計画は願望を投影したものとなっており、2050年における実現性および持続可能性を確認できない。 | ご指摘を踏まえ、ビジョン素案検討過程で検討材料としていた資料は別途資料編として付すとともに、将来像(2050年)と方針・戦略(2030年)は随時改訂を行い、精度を向上させてまいります。 | ○ |
| 3 | p.4: ビジョン策定の背景と目的 | 「埼玉スタジアム2002」の表記 →2つの「○」のフォントを揃える。 | 体裁が整っていない。 | ご指摘を踏まえ、誤字を修正いたします。 | ○ |
| 4 | p.4: ビジョン策定の背景と目的 | 「美園に係る様々な主体」の表記 →「美園に関わる様々な主体」 | 個人が受け身ではなく積極的に「関わる」姿が望ましい。 | ご指摘を踏まえ、文章表現を修正いたします。 | ○ |
| 5 | p.4: ビジョンのターゲット | 「ターゲット」に関する記述は削除する。 | このターゲット(=目標)を設定する理由・根拠が見当たらない。 後続の基本理念等との関係性がわからない。 最上位目標として設定するのであれば理由・根拠をかなり詳しく説明する必要がある。 | ご指摘も踏まえ、「ターゲット」欄に記載内容はビジョン素案内で後述する内容との重複もあるため、本ページにおいては「ターゲット」の項目は削除し、本ビジョン素案以前に整理された『美園スタジアムタウン憲章』(2017年3月)を発展検討させてきた「経緯」の説明に置換いたします。 | ○ |
| 6 | p.4: ビジョンのターゲット | 注釈の「身体的・精神的・社会的に良好な状態」の表記 →「身体的・精神的・社会的・ <u>経済的</u> に良好な状態」 | 「社会的に良好な状態」は、ソーシャルキャピタルが高い状態および、その基礎になっている経済的に自立できる(あるいは自立するための仕組みが公助・互助・共助の面から支援されている)ことだと思う。 端的に書くならば、「社会的・経済的に良好な状態」という記載であろうし、敢えてここでは「社会的」と記載した上で、後述される「将来像1」の中に健康長寿を実現するために「困った時に互いに助け合い、行政支援も得ながら生きていけるまち」という言葉を入れることも考えうる。 | 「ターゲット」欄については、No.5のとおり修正いたします。 なお、いただいたご指摘を踏まえつつ、将来像・方針・戦略等の説明表現は再考いたします。 | ○ |
| 7 | p.6: みそのウイングシティ 関連簡易年表 | 市やUDCMi等による都市計画・まちづくり関連の取組(例えば『みその都市デザイン方針』等)も年表に併記する、あるいは別の年表を掲示する。 | 今回のビジョンと過去の取組との関係性が見えるため。 | ご指摘を踏まえ、年表整理を修正いたします。 | ○ |
| 8 | p.8: 首都圏における美園 | 広域図の「都心部からの郊外化・避難」の表記 →「都心部からの郊外移住」 | 「避難」とは、何から「避難」することを意味するのか? 都心居住者を誹謗中傷していると受け取られかねない。 | ご指摘を踏まえ、文言表現を修正いたします。 | ○ |
| 9 | p.9: 目標年次 | 「世代交代が起きる2050年」の表記 →「世代交代が起き始める2050年」 | 目くら立てる程の問題ではないかもしれないが、今の30代は2050年ではまだ60代であり、既に高齢者の定義が65歳から75歳に移りつつある昨今の表現としては、こちらの方が良いのは? | ご指摘を踏まえ、文言表現を修正いたします。 | ○ |
| 10 | p.15: 「ヒューマンスケールな身近な水辺」の説明 | 掲載されている事例写真が綾瀬川のみであるが、調節池も「水辺」ととらえるべき。 | 調節池も「河川」の一部であるし、調節池の一部を水辺空間的に整備する案も存在していたため。 | ご指摘を踏まえつつ、本地区周辺の水辺環境は綾瀬川・調節池のみではないため、掲載事例写真および説明表現を修正いたします。 | ○ |
| 11 | p.21: 「美園発の多才な人材・多彩な活動」の説明 | シェアサイクル実証事業に関する「全国展開」の表記 →「さいたま市へ全市展開」 | シェアサイクル実証事業>HelloCycling)は、さいたま市内では美園地区で初めて実証され、その後全市展開されたものであるが、美園地区での展開以前にも国内では利用実績があるため。 | ご指摘のとおり、美園地区での実証以前にも他都市で実証実績はございますが、社会実装という観点では、美園地区での実証事業が大きなステップになったと捉えています。よって、ご指摘を踏まえつつ、誤解なく伝わる説明表現に再考いたします。 | ○ |
| 12 | p.23: 「美園の魅力(まとめ)」の図 | 基本理念の各要素間の矢印を、一方向ではなく双方向に修正する。 | 基本理念の各要素は、一方通行ではなく相互に関連しているため。 | ご指摘を踏まえ、図表現を修正いたします。 | ○ |

| No | 該当箇所 | 意見内容 | 理由等 | 考え方・対応(案) | 修文有無 |
|----|-----------------------------|--|--|--|------|
| 13 | p.25以降: 「将来像1」の表題 | 将来像1の表題「Well-being」の表記 →「健幸」、もしくは、少なくとも他の2つの将来像に併せてカタカナ表記「ウェルビーイング」 ※あるいは、将来像2の表題「アーバンビレッジ」、将来像3の表題「グリーンインフラ」の表記を、カタカナではなく英語とする。 | 大多数の市民にとって英語での表記は理解されにくいと思われる。これまで「健幸」という単語が多用されているし、ビジョン後半でも「健幸」が多用されるので、「健幸」がよい。表記の統一がとれていないと、見栄えが悪い。 | ご指摘を踏まえ、カタカナ表記の「ウェルビーイング」に修正いたします。 | ○ |
| 14 | p.25以降: 「将来像3」の表題 | 将来像3の表題「まちが自然に溶け込む究極のグリーンインフラ」の表記 →「究極のグリーンインフラ”自然に溶け込むまち”」 | ”グリーンインフラ”は、共有するまちの将来像として少しわかりにくい。また、自然地形の中に形成されたまちである美園を形容する表現として、「まちが自然に溶け込んでいる」よりも「自然に溶け込んだまち」の方が、自然がベースに置かれているまちづくりのコンセプトとしてとらえることができ、まち自体にナチュラル感が出るとともに、まさに究極のグリーンインフラを標榜できると考えた。 | ご指摘を踏まえ、文章表現を修正いたします。 | ○ |
| 15 | p.26: 「将来像1」の説明文 | 「先端技術を活用した」の表記 →「先端技術やコミュニケーションツールを活用した」 | 先端技術の中にコミュニケーションツール等も含んでいると思うが、技術が先端である事よりも、地域のみながつながっている事を強調すべきだと考えたので。 (p.27に「デジタル化」という単語もあるが、それとも揃える必要あろうし、「コミュニケーションツール」よりも適切な表現が何かあれば) | ご指摘を踏まえ、「コミュニケーションの活発化」に関する表現を説明文に追記いたします。 | ○ |
| 16 | p.26: 「将来像1」の説明文 | 「健康・医療・福祉サービスを組み合わせ」の表記 →「健康・医療・福祉サービスと行政サービスを組み合わせ」 | 「行政」という単語は「福祉」の中に含んでいるのだろうと思うが、「福祉」という単語だけでは、公助や行政による互助活動支援や共助の仕組みづくりといった点が分かりにくいと思い、外出しする案を考えた。 | 「健康・医療・福祉」は取組分野を、「行政」はサービス提供主体を表しており、また、ご指摘の一文は、取組を重ねた上でのまちの将来イメージを整理する文章であるため、素案のとおり文章表現といたします。なお、「主体間連携」や「互助・共助」等に関する内容は、ご指摘を踏まえ、ビジョン内で別途説明内容に追記いたします。 | — |
| 17 | p.26: 「将来像1」の説明文 | 「美園で日々を過ごすだけで」の表記 →「美園でみんなと助け合って日々を過ごすだけで」 | (No.6の理由と同じだが)字数が増えるので、将来像1の表題はそのまま、将来像1の説明に補足をとする案として考えた。 | ご指摘を踏まえ、「主体間連携」や「互助・共助」に関する文言を説明文に追記いたします。 | ○ |
| 18 | p.27: 「将来像2」の説明文 | 「市街地に田園が食い込み」の表記 →「田園に市街地が食い込み」 | もともと市街地があったところに田園が整備されたのではなく、田園があったところに市街地が整備されたのだから。 | ご指摘を踏まえ、文章表現を修正いたします。 | ○ |
| 19 | p.28: 「将来像3」の説明文 | 「ゼロカーボン」の表記 →「脱炭素」または「温室効果ガス排出量実質ゼロ」 | 報道等において「ゼロカーボン」という表現はあまり一般に用いられておらず、「脱炭素」や「温室効果ガス排出量実質ゼロ」(およびその類似表現)が一般的である。 | 「ゼロカーボン」の語は、国・市の施策等にも用いられ始めているので、注記も加えつつ、素案のとおりといたします。 | — |
| 20 | p.28: 「将来像3」の説明文 | 「環境技術」・「環境分野」の表記 →それぞれ「環境・エネルギー技術」・「環境・エネルギー分野」 | 美園地区では、(自然)環境に限らず、エネルギーに関する取組も多い。「環境分野」と記載することでエネルギー(CO ₂ 排出削減等)に関する取組に対して消極的な印象が出るため。 | ご指摘を踏まえ、文章表現を修正いたします。 | ○ |
| 21 | p.30以降: 「まちづくりの方針と戦略」の全般 | 全般に異論はないが、もう少しこのまちの住民自身が助け合う、楽しみながら自分たちの行動を変えていく事が重要である点を明確に表現した方がよい。 | ただ単にそこに住めば幸せになれるのではなく、その周囲にソーシャルキャピタルを高める仕組みがあって、それらの自助・互助・共助の活動にどんどん参加していくことで初めてまちがつられていく、という感覚をもう少し強く打ち出した方がよい。 「まちが色々してあげるから、そこに住んでくれればあなたも変わっていくから大丈夫」という主旨と、「色々な仕組みを準備してあるけれど主役はそこに住むあなたであり、あなたがコミュニティに参加して活動して、体も心も変わっていくことで初めてまちができる」という主旨と、どちらに近い表現にするかという問題である。 (もちろん、それは当然のことなので、しつこく書く必要はないという考え方もあると思うが) | ご指摘を踏まえ、「主体間連携」や「互助・共助」に関する文言を各説明文に追記いたします。 | ○ |
| 22 | p.31他: 「方針5」の表題 | “農のDNA”の表記 →「農」 | 「のDNA」と記述するのであれば、DNAという表現を用いる理由・根拠を示す必要があるため。「農」だけで主旨が伝わるのであれば「のDNA」は不要。 | 「農業」に関する産業・技術面に限らず、「農」に関わる習慣や知識、経験、物語等の社会的・文化的な背景も含め「DNA」と表現としておりましたが、ご指摘を踏まえ、文章表現を再考いたします。 | ○ |

| No | 該当箇所 | 意見内容 | 理由等 | 考え方・対応(案) | 修文有無 |
|----|-----------------------|---|--|--|------|
| 23 | p.31他: 「方針7」の表題 | 「“有事に役立ち、平時にうれしい”一石二鳥の環境をつくる」の表記 →「“有事に心強く、平時にうれしい” まちと人との信頼関係をつくる」 | しっかりとした治水・防災施設、避難備蓄、自主防災組織、余裕のある公共空間は、地域住民にとって、有事の際にはとても心強い存在である。有事に頼ることができるまちの各種環境(ハード面&ソフト面)は、長くその地に住み続けることができる安心感と、それによる人々の一体感を育むと考える。 また、そういったまちの一体感が、豊かな公共空間を活用した平時の地域の取組の熱源となって、継続的な地域協働活動が可能になれば良いと思う。 | ご指摘を踏まえ、文章表現を修正いたします。 | ○ |
| 24 | p.33: 「戦略1-1」の施策項目 | 子育て世代(30~40代)の運動習慣と、フレイル予防(70~80代)の間の50~60代の健康増進に関する施策項目を追加する。 (実際にやる施策は、子育て世代の運動習慣づくりと同様な事が多いかとも思うので、「子育て世代」という表現を「勤労世代」に修正することでカバーすることもできるだろう) | フレイル予防は筋力低下、骨密度低下を少しでも遅らせるための対応になるだろうが、今の50~60代に必要な運動は持久力維持、基礎代謝維持や、生活習慣病の予防・悪化防止の観点が重要だろう。地区内人口構成としても、70~80代よりも50~60代の方が多いだろう。 個人的な考えだが、子育て世代の運動習慣づくりは、短時間にかつ手軽に行えるけど運動強度の高いものであるのに対して、50~60代の生活習慣病予防には、運動強度は必ずしも高くなくても基礎代謝を高めるような持久力維持に近いものが良いと思っている。(様々議論があると思うので、詳細は専門家にお任せする) | ご指摘を踏まえ、エビデンスを確認した上で、文章表現を修正いたします。 | ○ |
| 25 | p.35: 「戦略1-3」の施策項目 | プロスポーツチームとの連携に関する記述を追記する。 | 浦和レッズ、さいたまディレーブ、T.T彩たまとの連携は、「スポーツのまち」としてのブランド力強化に大きく寄与できると考えられるため。 | ご指摘を踏まえ、文章表現を修正いたします。 | ○ |
| 26 | p.38: 「戦略2-3」の施策項目 | 「医療・福祉・文教拠点を中心に高度医療・スポーツ医療の提供」を直接行うだけでなく、周辺の医療・介護資源とのヘルスデータ共有や、周辺医療・介護資源への遠隔での専門医療介護を提供することにより、市内・県内の医療介護の高度化を図ることに関する記述を追記する。 | ここでの「医療インバウンドの定義」は、海外からの医療ツーリズムではなく、患者が東京都に流れている市内・県内から美園に集めるという意味だと解釈した。その前提で考えた場合、美園地区および市内のかかりつけ医・クリニックと中核専門医療提供者が、1つの仮想病院として機能できるようにすることで、市全域・県全域での専門医療を求める患者が美園インバウンドとして取り込むことができると思う。 元々、日本のフリーアクセスの医療制度のなかでは、地域医療者にとって中核専門病院は患者を奪って、一切返してくれない「敵」という感覚もあるかと思う。地域のクリニックで手に負えない場合、遠くの(つまり東京の)専門病院に送れば、その患者は回復したら地域のクリニックに戻るが、地域の中核専門病院に行ったら、患者にとっても近いから、もう二度と戻ってこない、ということかと思う。この問題を避ける方法は、クリニックの患者を中核病院が奪うのではなく、クリニックと中核病院を遠隔で繋いで、あくまで中核病院の専門医はクリニックの医師を支援するという位置付けにしたり、専門病院退院後の診察は地域クリニックに任せると、時々専門医から遠隔診療で患者とも会話することができれば、患者も安心して退院後に地域クリニックに戻る。現在山梨県で「仮想病院構想」の提案が進んでいたりするが、本項で「仮想病院」を取り上げる必要はないが、高度医療の提供だけを掲げると地域医療との課題が起こるので、何らかの地域の医療者へ配慮したような表現が良いと思う。 ちなみに、このインバウンドが海外からの患者受け入れも想定する場合には、当然入院施設ではない健康診断機能を持った宿泊施設や、近くで観光(というより各種体験)ができる施設の設置等が必要だと思う。 | ご指摘を踏まえ、医療・介護関連施設のリアル空間上での立地条件や近接性等と、ヘルスデータ等のサイバー空間上での連携を加味した文章表現に修正いたします。 | ○ |
| 27 | p.40: 「戦略3-2」の施策項目 | 「地域の共助・支え合いによる子育て支援環境づくり」の表記 →「医療・福祉・文教拠点事業者との連携を図り、地域の共助・支え合いによる子育て支援環境づくり」 | 医療・福祉・文教拠点へ中核専門病院ができ、かつ住民のパーソナルヘルスレコード(とまでは行かなくても健康情報)があるならば、病児保育や医療的ケア児や一時保育・学童保育といった分野にも広げていけるように考えるのはいかがか。 | ご指摘の意図も含め「地域の共助・支え合い」と記述しておりましたが、よりニュアンスが伝わるよう文章表現を再考いたします。 | ○ |

| No | 該当箇所 | 意見内容 | 理由等 | 考え方・対応(案) | 修文有無 |
|----|-----------------------|--|---|--|------|
| 28 | p.40: 「戦略3-2」の施策項目 | 「高齢者等のデジタル格差解消に向けたICT利活用支援の推進」の表記 →「高齢者等のデジタルに慣れていない方が自らICTを利活用したくなるような仕組みの構築と、利用方法についての知識を深める健康リテラシーセミナーの実施」 | 好みの問題かもしれないが、デジタル格差解消という「できないお前らを助けてやる」的な上から目線の感じがし、格差解消の意味自体も、底辺にいる人を持ち上げるという意味にも捉えられる。 一人ひとりに応じて一人ひとりがやりたいことをできるようにしていく意味を込めたい。ICTを使うか否かは道具の問題であり、自分がやるべきことは何かを気づかせる「健康」リテラシーセミナー(クチコミでも何でも良い)があつて、それをコスト安く、短時間にやるにはICTが必要。その使い方も教える、というストーリーになるような表現を考えた。 | ご指摘の意図も含め「ICT利活用支援」と記述しておりましたが、ご指摘を踏まえ、よりニュアンスが伝わるよう文章表現を再考いたします。 | ○ |
| 29 | p.40: 「戦略3-2」の施策項目 | 「ヘルスデータ等個人データの利活用・連携による健幸づくり支援サービスの充実」の表記 →「ヘルスデータ等個人データの利活用・連携による健幸づくり行動変容支援サービスの充実」 | ヘルスデータを分析して健幸づくりのためのアドバイスを作成したとしても、本人がそれによって行動を変えない限り、アドバイスは何の意味も持たないので、行動を変える支援をすると明記してはどうか。 具体的には、ダッシュボードを通じて、毎日の自分の状況、過去からのトレンド、近未来の予測が分かり、合わせて専門家による「こうあるべき、そのためには次にこれをしなくてはならない」という具体的なアドバイスがあり、それで行動を変容させたら自分の状態がどう変わったか分かるような健幸づくり支援サービスの充実が必要だと思う。 | ご指摘の意図も含め「健幸づくり支援サービス」と記述しておりましたが、ご指摘を踏まえ、よりニュアンスが伝わるよう文章表現を再考いたします。 | ○ |
| 30 | p.42: 「戦略4-1」の施策項目 | 「グリスロ」の表記 →「電動低速の小型移動手段」等 | 「グリスロ」という単語は、大半の市民が知らないため。 | ご指摘を踏まえ、注釈を追加いたします。 | ○ |
| 31 | p.42: 「戦略4-1」の施策項目 | 「国道バイパス・日光御成道の歩道部／交差点の歩行・自転車走行環境の改善」など、ウォーカビリティおよび自転車走行空間に関する具体施策を追記する。 | 見沼たんぼへのアクセスこそ「ウォーカビリティ」・「自転車走行空間整備」が重要であるため。「周遊アクセス充実」では、移動手段の記述にとどまっており、インフラ整備への言及が不十分。 | ご指摘を踏まえ、施策内容に加筆・修正いたします。 | ○ |
| 32 | p.44: 「戦略4-3」の施策項目 | 地下鉄7号線の岩槻延伸に関して言及していない理由は？ | 単なる質問です。 | 地下鉄7号線延伸や東西交通大宮ルート等は地区スケールを超える公共交通整備で、本ビジョンの対象区域を超えた広域の構想・計画です。また本ビジョンの「方針」・「戦略」は、向こう10年間を概ねの対象としておりますが、これら公共交通整備に関する具体的な実施計画等は現時点では明らかになっておりません。このため、これら公共交通の整備計画が明らかとなった段階で、それらに対応するよう本ビジョンを改訂する事を考えております。 | — |
| 33 | p.48-50: 「方針6」の説明文 | 「Originated「from 美園」」の表記 →「美園発」 | 「Originated」という英語表記はわかりにくい。より単純な表記が望ましいため。 | ご指摘を踏まえ、文章表現を再考いたします。 | ○ |
| 34 | p.48: 「戦略6-1」の表題 | 「美園コミュニティ5.0」の表記 →「5.0」を削除する | 美園コミュニティ5.0とあるが、これまでの1.0～4.0は具体的に何か存在するのか？ 5.0と記載する理由・根拠が明確にないのであれば、5.0は削除したほうがよいと思われるため。 | 「美園コミュニティ5.0」は、国の第5期科学技術基本計画にて提示されたキャッチフレーズ「Society5.0」にも擬えつつ、美園地区のこれまでの発展を大きく5段階に解釈し、今まさにその5段階目にあると捉えた造語です。ご指摘を踏まえ、注釈を追加いたします。 | ○ |
| 35 | p.50: 「戦略6-3」の施策項目 | スポーツ(埼玉のイベント、その他スポーツチーム等)を通じた発信の施策について言及する。 世界の人々を受け入れる施策、世界の人々と地元住民を交流させる施策について言及する。 | 「方針1」とも関連するが、国際試合など、スポーツこそが世界に発信する機会となる。また外国人監督／選手・通訳なども世界に美園を発信する機会となる(帰国後に美園での経験を語ってもらえるような存在になるとよい)。 2050年にはさらなる国際化が進展していると想定されることから、世界への発信だけでなく、受け入れや交流についても具体的なビジョン・施策を持っておかないと、脆弱なコミュニティとなるため。 | ご指摘を踏まえ、施策内容に加筆・修正いたします。 | ○ |
| 36 | p.51: 「戦略7-1」の施策項目 | 透水性舗装、不浸透域の縮減、雨水貯留タンクの普及など、集中豪雨時の雨水流出抑制施策に言及する。 ※追記箇所は「戦略8-1」でもよい。 | 今後開発が進むと不浸透域の割合が高まるため、集中豪雨時には綾瀬川等への雨水流出量がこれまで以上に増加し、洪水及び内水氾濫の危険性が高まるため。 | ご指摘を踏まえ、「雨水の流出抑制」に関する施策内容を加筆・修正いたします。 | ○ |
| 37 | p.56: 「戦略8-3」の施策項目 | 高断熱、HEMS/BEMS、ZEH/ZEBなど、建築部門でのCO ₂ 排出削減策への言及が望まれる。 | これから建築物(住宅、商業)が急増する美園だからこそ、個々の建築物での対策を強く推奨する施策を位置づける必要があるため。 | ご指摘を踏まえ、「建築性能向上」に関する施策内容を加筆・修正いたします。 | ○ |

| No | 該当箇所 | 意見内容 | 理由等 | 考え方・対応(案) | 修文有無 |
|----|----------------------|---|---|--|------|
| 38 | p56: 「戦略8-3」の施策項目 | 素案の修正を提案するものではないが、「戦略8-3」ですでに挙げられている4つの項目のほか、関連項目として「IoT化した街路灯・道路灯の導入による省エネ・光害抑制に配慮した屋外照明環境の構築」をぜひ検討いただきたい。 | LED街路灯・道路灯をIoT化し、時間帯や交通量に応じて光量・光色のコントロールや点灯制御(深夜の消灯・減灯、歩行者や車の通過時のみ点灯させるシステムなど)を行うシステムは、欧米や国内の一部の自治体で試験導入され始めている。このシステムにより、照明による無駄なエネルギーの削減、人工光による光害(自然環境への影響、人の生活・健康への影響を含む)の抑制が期待できる。 適切な屋外照明環境は、住民の快適・健康な生活にも関わるものであり、Well-beingのターゲットとも適合する。農作物の中には夜間人工光により生長を阻害される種もある。豊かな緑とそこに住む動物・昆虫にも、人工光の影響を受けやすい種が多数いるはずである。光害抑制に配慮した屋外照明の導入は、これらの影響を最小限にすることに寄与する。 光害を抑えた適切な照明環境の構築は、「戦略3-3」にある「安心安全な歩行ネットワークの形成」や、「戦略6-2」にある「先端技術等のフィールド実験受け入れ」にも合致するものである。 (参考情報:「さいたま市生活環境の保全に関する条例」の第104-107条において、光害の防止を定めている) | ご指摘を踏まえ、施策の具体化時に実施検討いたします。 | — |
| 39 | p.63: 活動の指針 | 何らかの形で、地域の公立学校(小中学校)もまちづくりのプレイヤーとして、個別に位置づけてみることはできないか。 (大学がぼやけない程度に) | 30年後の将来像については、現在の子供たちが中心となってその実現を確認することになる。各種まちづくりのプレイヤーが小中学校の地域学習へまちづくりの貢献するほか、児童・生徒に各種取組のモニターとして参画してもらおうなどの施策アイデアはいかがか。 | ご指摘を踏まえ、「地域の小中学校との連携」に関する内容を、本項および前章の各施策へ加筆・修正いたします。 | ○ |